

大学名

鹿児島大学（鹿児島大学病院看護部）

表題

地域に貢献できる人材の育成と行政との連携による地域支援  
～地域医療介護総合確保基金を活用した地域支援体制～

【取材対応者】 【特色ある取り組み】



市村看護部長

当院看護部では、離島・へき地を多く抱える超高齢化の先進県として2014年から、当院の看護師・助産師がより専門的な知識のもと主体的に地域に貢献することを主旨としたキャリアパス「地域看護コース」や、「3年目地域施設見学研修」等により、地域に貢献できる人材の育成に取り組んでいる。

2014年に「地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備などに関する法律」が公布され、当院看護部では、2015年1月から2019年3月までの5年間、県委託事業として地域医療介護総合確保基金を活用した「地域における訪問看護職等人材育成支援事業」に取り組んだ。これは、当院の「地域看護コース」選択者や専門・特定・認定看護師等を各地に派遣し、多職種合同事例検討会、訪問看護師等対象研修、患者・家族・住民対象の講話、同行訪問による技術支援などを通して地域の看護・介護職等の人材育成を支援するものであり、5年間で183事業31市町村へ延べ362名の看護職を派遣した。

また、助産師の偏在緩和及び実践能力の向上をめざした「助産師出向支援事業」や、一定期間訪問看護ステーションへ出向する「訪問看護理解・連携促進事業」、「離島における特定診療科巡回診療」、代替要員としての看護師特定行為研修修了者等の離島派遣など、県や市町村と連携し地域のニーズに応じた支援を継続している。

【上記取り組みによる成果・評価など】

「地域における訪問看護職等人材育成支援事業」では、5年間で、保健師・介護福祉士・ケアマネージャー等の医療従事者及び地域住民延べ5415名が参加した。離島での実施が94事業（51.4%）を占めており、研修参加が困難な地域での人材育成につながっている。

また、本事業を契機として行政・医療機関・地域担当者との顔の見える関係性が築かれ、2018年からは、医師の常駐しない離島・へき地に暮らす住民が住み慣れた地域で最後まで暮らすことを目指し、へき地診療所に勤務する看護師の継続教育支援のためのネットワーク構築事業「十島村看護師キャリアアッププラン開発プロジェクト」がスタートした。2020年度からの2年間、当院看護師も出向を予定しており、今後、他の離島への展開が期待される。



多職種対象講習会（高齢者と介護のための排泄ケア）



看護・介護職員のための摂食・嚥下研修会（嚥下体操）

【参考URL】

■鹿児島大学病院看護部地域支援体制HP  
<http://www.kufm.kagoshima-u.ac.jp/~nurse/regionalexchange.html>